



## 第46回会員交流誕生会



去る4月17日（日）正午から第46回目の「会員交流誕生会」が、多田マウロ副会長の司会ではじまった。

最初に先没者や、さる3月11日突如として東北沿岸部を襲った、M9.0の大地震、史上最大とも言われる大津波の犠牲者へ、1分間の黙祷から始まり、千田会長は大災害の被害状況、犠牲者数、

被災地などを説明。被災した岩手県への義援金状況や送金方法を説明しました。

内海博相談役の乾杯の音頭で昼食会が始まった。食事後「ビンゴ」を開催。売上全額R\$ 370.00を災害義援金にした。

達増岩手県知事から高齢者「賀詞」が、会長より高橋凡児副会長へ伝達された。高橋さんは「皆さんのお陰」と受賞のお礼を語った。

次いで1月から4月生まれの誕生会は、ケーキを皆で囲み「パラベンス」を歌い、誕生者へ小さな贈り物があった。最後に「北国の春」を合唱し午後3時頃散会した。なお参加者

50名余であった。

この日及川君雄氏より大量のバラが配られた。



## 及川氏親族来館

3月5日（土）午後アチバイア在の及川君雄氏（大東町出身）のお兄さんや甥子さん達、親族5名が県人会を訪れた。

一行はリオデジャネイロやイグアスの滝など見学された。サンパウロはリベルダーデ地域やパウリスタ大通りを見てアチバイアへ。6日には及川氏家族で歓迎会を開き7日には帰国されるとの事。

☆ 後日の津波で及川氏の奥さんの兄さん（大船渡出身）が陸前高田市を訪問中犠牲になったとの事。遺体は1週間後発見された。



## 岩手県人会の行事予定（Eventos de Iwate）

☆ 5月29日（日）午前11時より  
第5回「わんこそばまつり」

5° Wanko-Soba Matsuri dia 29/05/2011

Antecipado R\$15.00 Dia R\$18.00

前売り券 大人 R\$ 15,00 当日券 R\$ 18,00

子共 R\$ 10,00 当日券 R\$ 13,00

利益金は「東日本大災害義援金 SOS」に致します。

☆ 7月15・16・17日 第14回「日本まつり」が  
イミグランテ展示場で行われます。

東日本大震災に対し『甦れ！美しきニッポン』として 特別展示コーナーを設け、写真展示やビデオを放映。

（14° Festival do Japão dia 15/16/17 de Julho de 2011 — Local Expo Imigrante）

☆ 8月28日（日）午前11時より『第47回 会員交流誕生会』が行われます。

（47° Confraternização e Aniversario

Dia 28/08/2011）



# 第7回東北ブロック運動会

5月1日(日)午前9時から、東北6県北海道ブロック青年部主催による、第7回運動会がコレジオ・サンタ・アマリア校(メロ サウデ駅近く)で開催された。 広場は屋根があり雨天でも色々な催しが出来、また設備の整った会場であった。 今年のブロック担当県、多田マウロ岩手県人会副会長



の開会の辞で始まった。 最初にラジオ体操、小さいお子さんの競技が始まり、お年寄りまで楽しめる様々な競技があった。 屋食は青年部手作りの弁当や飲物、他にバザー店が立ち並んでいた。 午後の部が始まる頃雨が振出したが、屋根付き会場で心配なく継続された。 太鼓演奏や各種競技が行われ、圧巻は小さいお子さんから親父さんお母さん青年と、4組のリレーが行われ応援宜しく大歓声の中競技が行われ、4時過ぎに終了し約400名が楽しい一日を過ごした。 おつかれさま！ ☆ この日「希望の家」へ寄贈される食料は326キロ集まり、上記団体江口ホメロ代表に寄贈された。



## 『 日本に泣き 日本を誇りに 』

岩手町出身 高橋 祐幸

何故か近頃めっきり涙もろくなってしまう、何か悲しい事を聞いたり言ったり、テレビで感動する場面を観たりすると目に涙が潤んでしまう。

カラオケも(空桶道場)独りで歌うときに、親子とか故郷をテーマにした曲を歌うと、涙が込上げてきて絶句する事があります。(中略)

まして今は、日本の大震災に加えて福島第一原発事故の生々しいテレビニュースを観る度、泣けてくるのを抑える事が出来ない今日この頃です。 特に肉親を探して瓦礫の中に啞然として佇む人、助かって避難所で再会を抱き合って喜ぶ親子、自分も被害者でありながらボランティアで必死に働く人「貴男は日本の救世主になって下さい」とメールを送った、原発救急隊長の話などには、号泣さえはばからずにしてしまう程です。

ブラジル M/S 銀行頭取のK氏から頂戴したメールに、お菓子を買いに行ったらレジの行列に並んでいた子供が、レジの横に置いてあった「災害募金箱」に気づいて、握り締めていたお金をその中に入れ、お菓子は棚に戻して帰ったとの事。そしてレジの女の子が「アリガトゴザイマシタ」と泣くように声を上げたとの事、そのメールを何回も何回も読返しながらか、いつまでもいつまでも私は泣き続けた。

スーパーの床に散乱した商品を拾い上げて棚に戻しながら、一人当たりの制限金額での買物に静かに行列をしていると云うTV・GLOBO特派員の画像が写し出された時も、救援の給水車に長い行列して待たされた母親が、やっと赤ん坊にミルクをやれますと安堵の表情が写った時も、溢れ出る涙を止める事が出来ませんでした。この数日NHKの映像にへばりついている私は、一晩2時間位うとうとするだけで映像に取り付かれています、涙がどれ程流れたか「涙って幾ら流れ出

ても無くならないもんだ」って云う事が判りました。

あれだけの災害に遭難・遭遇しながら略奪や暴動が起きないばかりか、むしろ整然たる秩序を守り、健気な助け合い、沈着に行動し復興に立ち向かんとする日本人の姿を見せられて、ただただ頭がさります。

自分がサンパウロでいくら節電やガソリンを節約したって、何の協力にもなりません、そうする事によって日本の日本人と同じ心を共有出来るような思いを致しております。

僅かばかりの義援金募金に応じたところで、何の役に立つのかと思ひながらも、昨日は市内のブラジル岩手県人会事務所まで出かけて、僅かばかりの募金もして参りましたが、ただ祈る事しか出来ない自分の情けなさに身が振じ切られる思いです。

ここサンパウロでもブラジル人たちの、日本を思いやる言葉や、日本人を賞賛する声が沢山聞かれます。ブラジル最大のサッカーファンを持つ、コリンチアスチームは、ユニホームに「FORSSA

JAPÃO」(日本頑張れ)と日の丸の旗を胸に入れた特製のユニホームで試合に挑んでおり、テレビも新聞も大書していますが、それを観てまた泣かしています。

しかしこの大災害で日本中の日本人が、心を一つにして雄々しく立ち上がって救援、復興に向かっている姿を観た事によって、日ごろ日本の政治家を批判し、やる気を失くした若者を嘆いていた私は、自分の間違いを嫌という程に知らされました。日本の日本人がこれほど素晴らしい民族であると言う誇りを、今ほど強く感じさせられた事はありません。 3月21日



4月11日、兄2人と弟夫婦が行方不明だと涙ぐむ釜石市の浜田マサさん

## Dreams Come True

ニューヨーク・大連・サンパウロetc...世界10カ国  
二戸の酒米「ぎんおとめ」で造られる  
二戸の地酒 南部美人は世界へはばたく。



株式会社南部美人  
岩手県二戸市福岡字上町13  
TEL.0195-23-3133  
FAX.0195-23-4713  
E-mail:sake@nanbubijin.co.jp  
ホームページ毎日更新  
http://www.nanbubijin.co.jp  
●お酒は20歳になってから

## 南部美人を飲めるサンパウロのお店

J UN SAKAMOTO TEL 3088-6019  
A-1 TEL 3145-1833  
BUNDDHA BAR BRASIL TEL 3044-6181

SHINTORI 新 鳥 TEL 3283-2455  
KINOSHITA 木 下 TEL 3849-6940  
SHAYA TEL 3079-5020

らーめん和 TEL 3145-1833  
阿 咩 TEL 3145-1833  
藍 染 TEL 5080-3300  
ら ん 月 TEL 3085-6915

2月1日 SOS リオ水害義捐金募金は1月31日締切り、新たにR\$2,903.00が集まり、早速リオ州日文化体育連盟口座へ振込み。累計は3,619レアルとなった。協力頂いた皆さんの善意に多々感謝。

2 会長はサンパウロ、ニッケイ両新聞社にリオ水害義捐金の報告とお礼に訪問

9 県連事務所設置委員会に会長出席

11 麻生太郎元総理より南米訪問の礼状受信

15 川崎重工の沢里氏、本多氏、苔米地静子さんの情報について来訪

20 臨時総会開催。出席者26名で役員改選について。会長候補者が居なく前理事会が継続と決定。

22 県国際課より、県知事表彰の「賀詞」、岩手紹介の「コミックいわて」「希望郷いわて」受領

23 県連主催の後藤領事の送別会に会長出席

24 県連代表者に会長出席

26 北海道協会長木下利男氏逝去。千田会長お通夜に出席

3月2日 黄川田徹衆議員から南米訪問の礼状受信

4 今日から年1回のカーニバル開始

11 (金) 午前2時46分東北地方で大地震発生。次いで大津波が沿岸地方を襲う(地獄絵図を見るような感じ)

※ 県人や他県人から情報の問い合わせあり。報道関係(テレビ・新聞・雑誌等)者多数来訪取材あり。生中継放送では夜中1時半終了。

12 大震災義援金受付開始。電話の問合せ報道機関多数の取材あり

13 県人会は緊急問合せ対応に開館

14 2テレビ局の取材あり。岩手・宮城、福島3県で義援金受付の為、邦字紙に依頼

15 午後、盛岡の藤村勝巳さんから、山田町の「松本トミさん、智子さん龍二さん」共に安否確認のメール受信

16 夕刻、アルキミン州知事と大部総領事、3県人会長が州政府で大災害に関して懇談。知事は最大限の支援を行うと約束。

17 午前10時文協で日系5団体共催による、大災害犠牲者初7日法要が行われ500人余が参集。また午後6時から岩手、宮城、福島3県合同の法要が執り行なわれ250名が出席。会長両法要に出席。

19 臨時総会后、初の役員会開催 議題 46回会員交流・誕生会、東北ブロック運動会、わんこそば大会、日本祭り、婦人部の再興、留学生OB会開催など

22 午後2時半から州議会議長、日系2議員、総領事、被災4県人会代表と懇談、州議会も哀悼と支援を約束。

30 会報172号(含む併合)を国内外へ発送。

☆ lbc 岩手放送の中村好子さんから取材情報受信。

31 県連代表者会及び定期総会に会長出席。県連新会長に園田昭憲氏を指名(鹿児島県人会長)

4月4日 義捐金第1次分送金について、ブラジル銀行に相談。日本赤十字社口座であれば手数料少々との事。 ☆ 県国際課へ口座名義人を日赤岩手支部として送金の問合せ。

6 夜、東日本大震災関係県人会と、メディア、政治家等で大々的に義援金募集について協議、会長出席。

7 再度大地震発生で岩手地方停電。やっと国際課の川村氏の携帯に繋がる。各地へ安否確認の電話を入れる。

10 山田町の松本家と電話通話が可能になり、被災のお見舞いを告げる。

11 陸前高田出身の黄川田徹衆議員より、会報受領と大災害復興支援について受信。

14 杉村新氏(杉村第3代駐伯公使のお孫さん)から、会報受領と大災害関連紙送付について

15 「日本赤十字社岩手県支部」へ義援金送付について問い合わせ

17 4月度定例役員会開催。議題は大災害義援金募金状況、送付。東北ブロック第7回運動会、第5回わんこそば大会、日本まつり

☆ 第46回会員交流誕生会あり、出席50名余、ビンゴの売上金を災害義援金へ

18 日本赤十字岩手県支部から義援金は、被災地が広範囲のため日本赤十字本社として返信あり

☆ 民謡教室の海藤司氏より、津軽三味線を担いで世界一周旅の途次県人會に立ち寄った鈴木徹君(お母さんが岩手出身)から、寸志と旅行写真(cd)受領。

5月1日 東北ブロック青年部主催「第7回運動会」を開催。約400名位の参加があった

3 藤村光夫相談役兼会計さんが、訪岩へ出発

7 椎の実学園の生徒代表が義援金と千羽鶴で被災者を元気づけて下さいと来館。

9 県国際課より県人會からの『義援金』受領のメールあり。

10 東北ブロック代表の会合を当県人會で開催

11 「椎の実」学園からの「千羽鶴」を母県へ発送

13 日本まつりブース抽選会に会長出席

16 山田町の松本トミさんより「千羽鶴」について電話あり

17 わんこそばまつり案内状を会員に発送

## 県人会賛助会員が支援のボランティア

今度の大地震に対し、県人會は義援金で応援しているので、母県の若い県人会賛助会員に、被災者や被災地に救いの救援をお願いしました。盛岡の渡邊さん一家や遠野の佐々木さん、花巻の高橋さん(医師)など、被災地に救援物資を数回にわたり届けて頂いている。また、高橋さんは医師として被災地からの患者さんを多く受け入れている。

渡邊さんは被災地の生々しい現地の話を入れた動画や、写真をHPで紹介。佐々木さんも被災地釜石などの写真を電送頂いた。他多くの会員が支援の手を述べられたと思います。

県人會を通して人的交流の有難さを改めて痛感しました。ありがたいことです。今後とも宜しくお願い致します。

**寄付・寄贈** 鈴木徹(千葉在)300ドル、高橋勇一郎(長野在)300ドル、須田正雄 R\$100.00、佐々木憲輔 他一來館者多数 御茶菓子など多数、

**来館者数** (1階利用者は含まれません)

2月 533名、3月 592名。4月 458名、

## 会費納入者名 (年額R\$75.00 敬称略)

3月 山田山口エツコ、平尾宏子、高橋イレネ、菊池満、高橋万右エ門、梶田重雄、畑勝喜、千田みやこ、佐藤定彦、工藤五三郎、千葉キク、川村秀雄、石崎一嘉(賛)、伊藤範夫(賛)、尾崎真治(賛)、

4月 阿部安武、久保和子、大田良穂、大志田寿、多田マサキ、多田イサオ、多田登、多田孝則マウロ、及川君雄、小原アヤ、国成貞子ローザ、国成精一ジュベニルソン、三部キエ、岡田コウ、谷田部あきよ(賛)、

5月 渡辺美智子、中島悟(賛)、

## 図書貸出数及び利用者数

2月 751冊、170名、3月 740冊、180名、

4月 722冊 165名

**図書寄贈** 3月 岩脇恵理子 4冊、佐々木ユカ 2冊、無名1冊、三浦 14冊、

4月 上滝 125冊、岩脇恵理子 7冊、阿部宏樹 6冊、宮城義晴 2dvd、

## おくやみ

佐藤 武氏(104歳、金ヶ崎町)は、天寿を全うされ4月6日逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

☆ 佐藤氏は県人會賛助会員であり、お姉さんか妹さんがブラジルへ移住されており、何回か訪伯されている。



## 東日本大震災（2） 岩手日報より

### 巨大津波 明治三陸津波を超える

先の東日本大震災の大津波で陸地の斜面を駆け上がった津波の「遡上高」が、宮古市姉吉地区で、明治三陸津波 38, 2m（1896 年）を超え 38.9m だった事が判った。

特に湾奥が狭くなるリアス式海岸では、遡上高が 30m を超え、宮古田老地区で 37, 9m、大船渡市三陸町綾里は 30, 1m、低地に広がる陸前高田市高田町 18, 9 M、大槌町役場近くは 11.8 M（山肌に迫った津波の高さは 28m）で、役場で対策を協議していた同町長は津波の犠牲になった。

#### 普代守った巨大水門 被害を最小限に



東北有数の高さ 15・5メートルの普代水門（総延長 205メートル）と太田名部防潮堤（総延長 155メートル）が普代村の津波被害を最小限に食い止めた。過去

2度の大津波で多数の死者を出したことを教訓に、当時の村長らの強い要請で整備された巨大な堤防が大津波から集落と村民の命を守った。村によると今回の津波は高さ約 20メートル。水門を越えたが、そこから上流約 300メートルで止まり、付近にある普代小、普代中のほか村中心部も被害を免れた。

『死亡行方不明数』 4 月 9 日までの岩手県の死亡者は 3745 名、行方不明者 4707 名で、犠牲者最大の宮城県では 7868 名、不明 6619 名、福島県で 1201 名、不明 3535 名。12 都道府県の死者は 12, 876 名、行方不明者は 6 県で 14,865 名。この数字は時が経つに従ってもっと増えるのではないかと。

『地盤沈下』 4 月 14 日、国土地理院は、岩手沿岸被災地の水準点の高さを調査した。最高で陸前高田小友町が 84 センチ、最低で宮古市津軽石で 33 センチ、大船渡市で 73 センチ。宮古市から陸前高田町の



全ての沿岸地域で地盤沈下が確認。宮城県石巻では 1.2m や福島県でも 28 地点で沈下が記録された。この地盤沈下により満潮時には低地では、道路や床下まで浸水し生活や活動の妨げになっている。

〔大雨により市内のあちこちで道路が冠水した＝ 4 月 23 日 陸前高田市高田町〕

友人からの便り 今回の震災で岩手はご存知の通り大変な被害を受けましたが復興に向けて一丸となって頑張っています。内陸はそれほど被害がなかったのですが、私も沿岸部の被災地に灯油や生活支援品を何度も配達しておりました。仕事の方も被災地からの患者さんをどんどん受け入れています。IBC テレビで千田さんからのメッセージを拝見して取り急ぎメールさせて頂きました。遠く離れたブラジルでの募金活動も感謝しております。 花巻市 高橋典克（医師）

先日はお電話をありがとうございました。全国、そして海外からも多くの支援が届き、被災地のみんなも頑張らなければという気持ちが芽生えてきているようです。しかしながら住宅、仕事など生活再建の見通しが全く立たない人が多いようで、私の知り合いの多くも同じような状況にあります。

隣接する遠野市の空き家、アパート等もほぼすべて被災者の転居としてうまっています。一日も早く避難所から出て、普通の生活に戻るように



10メートルの防潮堤を越す津波、間近で撮影岩手・田老地区

#### 桜（はる）来てたくましく

3 月 11 日の東日本大震災発生から、1 カ月後の 4 月 11 日、大船渡市は、県内のトップを切り桜の開花を宣言。春の訪れが、生活再建へと向かう市民らに希望を与えた。



津波により標本の幹は高さ約 3メートル付近まで水没、枝の一部も水に漬かった。周囲には丸太やがれきが流れ込んだが、倒れることなく耐え抜いた。

なりたいということの表れだと思います。3 月 19 日に釜石、大槌に支援物資を届けた際に撮った写真を送ります。

道路のがれきは撤去されておりますが、港湾に乗り上げた船や市街地は手つかずの状態です。現場は写真でみる以上に悲惨な状況です。

ブラジルにも、被災地にお知り合いや親戚がいらっしゃる方々もいて心配されていると思います。提供できる情報がありましたら、お役にたきたいと思いますのでその際はご一報ください。

ブラジルジャパン有限会社代表取締役 佐々木栄洋

中村好子です（IBC 岩手放送ディレクター）ブラジル県人会やアルゼンチン県人会からのメールをテレビやラジオで聞かせていただきました。

地震発生時の 11 日（金）午後 2 時 46 分に、私は会社で編集をしていましたが異様に長く大きな揺れに、ただ事ではないと思い外へ出ました。会社の屋上の鉄塔や隣の建物の非常階段がはずれんばかりにギンギン揺れておりました。「すごい映像」だったけれどカメラを取りに中へ戻る気にはなれませんでした。

揺れがひとまず収まったので報道部へ行くと、津波警報が出ていました。最大波まで 30 分弱しかなかったと後から知りました。最初に見たのはリアルタイムの映像一。宮古市の高台に設置されているお天気情報カメラの映像で、魚市場に停まっていた何台もの車や夥しい数の青色の魚ケースがまるでおもちゃのように大波に流される、目を疑うような光景でした。

その後のことは正直よく覚えていません。私自身はそれからずっと報道部のデスクまわりで情報整理をしていて気がついたら 3、4 日たっていたという感じでした。日本列島のあちこちで立て続けに地震が起きて、「日本沈没」なんて言葉も浮かびました。弊社はラジオもあるので、ラテと Ustream サイマルでずっと情報を流し続けました。発生後まもなく JNN（TBS 系列）の応援クルーが続々と駆けつけました。現地から次々あがってくる映像は、美しかった三陸沿岸の無残な光景、行方不明の家族をさがす人の胸を締め付けられる姿で、素材受けをしながら涙があふれてきました。どこかでずっといや、もしかしたら今も、自分はこうした災害を「対岸の火事」とか「歴史上の出来事」としか思っていなかったのだ…



と思い知らされました。心の底を覗いてみれば、結局他人事にしか思っていなかったんだなあ。取材してきた、正直でおおらかで優しく、気持ちのいい、海の人たち。朝 2 時 3 時から漁に出て、船底一枚下は地獄という海で体を張って三陸産のブランドを獲り育てた人たち。日本の漁業を支えてきた人たち。 本当ならワカメの収穫が始まる時期で、船の準備が進んでいたのに。船も家もすっかり流されてしまいました。こんな目にあって、また海に戻ろうと思うだろうか…。

携帯電話が通じ、道路も通れるようになり物資も行き届き始め、仮設住宅の建設が始まりました。けれど、まだ多くの人が避難所生活を余儀なくされています。津波に流された大切な人の行方を捜し続けています。

大規模な自然災害の前に人間は自分の無力さを痛切に感じます。太古の昔から人間は自然に驚異を感じ、それを神として敬ってきました。現代においても自然を克服することなどとうい無理な話です。それを再認識して、どう自然と向かい合っていくか。復興は長い長い道のりです。自分にできることをやるしかない、今はそれだけ考えています。長くなりました。一方的にすみません。 千田様、奥様、お体大切に。

## 福島原子力発電所事故 放射能流出



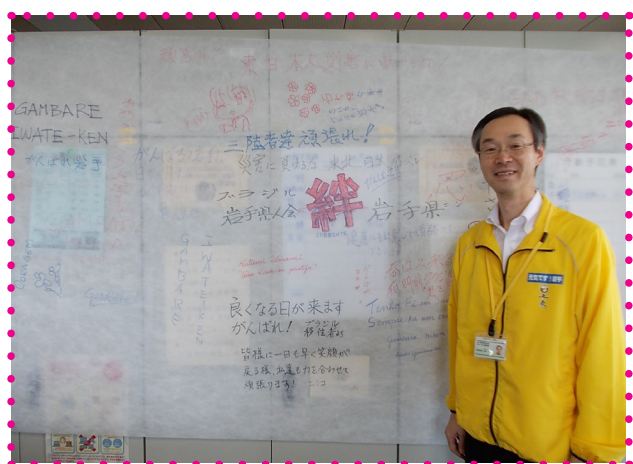
今回の大震災で「福島県第一原子力発電所（4基）」で、地震や津波で原発の機能が止まり、TV画面で「炉の建屋」が次々と水素爆発し、放射能漏れで半径 30 キロの住民は余儀なく避難させられた。

農家は精魂込めた作物の出荷を停止させられ。風評被害で近隣の作物まで敬遠された。また、酪農家は牛や豚、家畜を残し避難した。1ヵ月後の様子では、飼料不足のためやせ細った牛や豚が、弱って死んでいる家畜が出ていた。

住民は、生活の基盤が無くなり将来が見えない状態で、怒りを露わに出しても収まらない現状のようで、早期に平穏な生活に戻る事を祈っているようである。

資源小ない日本国、原発の安全性や電源確保、原発の見直し撤廃、休止が問われているが、原動力不足では日本の発展は難しいのではないかと考えられる。

放射能漏れ何とか食い止めて欲しいと、願っているのは筆者だけではないと思う。この事故での損害賠償額は「何丁円」となるのでは、と試算されている。



## ～「がんばろう！岩手」宣言～

平成 23 年 4 月 11 日 岩手県民を代表して

岩手県知事 達増 拓也

3 月 11 日の東日本大震災津波から 1ヵ月が経ち、岩手では大勢の方が犠牲となり、行方不明となっている方も数多くいます。また多くの方が家を失うなどして、避難生活を強いられています。

岩手はこれまで、明治、昭和の三陸大津波やカスリン、アイオン台風、チリ地震津波、岩手・宮城内陸地震など、何度も大きな自然災害に見舞われてきました。しかし先人は決してくじけず、これらの苦難を乗り越えてきました。今回の大災害も、岩手の豊かな自然のもとで育まれてきた自立と共生の心があれば、必ずや克服することができます。

宮沢賢治は、「世界ぜんたいが幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しました。

私たち県民は皆で痛みを分かち合い、心をつなげて被災された方々が「衣」「食」「住」や「学ぶ機会」「働く機会」を確保し再び幸せな生活を送ることができるようにしていきます。また、犠牲となられた方々のふるさとへの思いをしっかり受け止め、引き継いでいきます。

どんなに長く厳しい冬が続いても、暖かい春は必ず訪れます。全国そして世界中からいただいたお見舞いや励ましを糧に、県民みなで力を合わせ、希望に向かって一歩ずつ復興に取り組んでいくことを誓い、「がんばろう！岩手」をここに宣言します。

（岩手県HPより）



## 親族の安否確認にホット！

3 月 11 日の大災害発生以来、県人会に会員や他県人からも親族の安否について問い合わせが次々とあった。

災害による通信不通で、各地知人に電話が通じず不安がつのるばかりで、2 日後くらいから一部内陸部で通じ安堵の確認が出来たが、沿岸部は電気通信網が全滅だったようである。

役員親族の安否確認が出来たのは、沿岸在の友人が確認に飛んだようで、4 日後に安否確認が出来安堵できた。

会では、死者の名簿を調べるのが辛く、まず先に県内各地の避難者名簿を調べ、1 件避難所にいる人が確認され知らせた。名前があれば無事を確認できたからだ。名前が無ければ最後は犠牲者名簿を調べ、氏名が無ければ無事ではないかと知らせた。ただ行方不明者や遺体確認が出来ない方々も多く困った・・・。

でも調べた結果犠牲者の名前が無く「ホット」している。後に分かった事であるが編者の友人の家が、火災と津波で親族が数名以上犠牲になった事が分かった。

## 東日本大災害義援金の中間報告

去る 3 月 11 日突如として起こった東日本大震災に対し、会員はもとより日系人多数の方々が直接会へお出で下さったり、振込名あり或いは匿名で銀行に振り込まれた尊い義援金の支援がありました。本来ならご氏名を記載してお礼したいと思いますが、200 名以上の氏名を略しますのでご理解を。ご協力された皆様方に心から感謝申し上げます。

中間報告 5 月 7 日現在、R\$ 51,277.25、米ドル 2,520、日本円 137,000 でした。

岩手県へ義援金の送付に対し難関がありましたが「多額の所得税を避け」送金の目途がたち、役員が母県へ飛び 300 万円にして、5 月 9 日「書き書」（写真左 畠山智禎国際課総括課長）と共に母県へ届けた事をご報告いたします。尚、義援金募金活動は今後も継続し、会の催しなどの利益も義援金としてたく存じますので、今後とも宜しくご支援の程をお願い申し上げます。



## 東北地方太平洋沖地震被災者のみなさんへ

ブラジルで先生として働いている西原です。日本で地震があった後、生徒たちが何かしたいと言い、日本の国旗を作って被災者の皆様へ送りたいと言っておりました。先週の金曜日は、学校中で赤と白の私服の日を行い、お金を集めました。県人会の方へ入れる予定です。生徒たちが書いた手紙の翻訳は以下になります。実物をどこかに送りたいのですが・・・。

ブラジルからは色々出来ませんが、お祈りしております。がんばって下さい。  
インターナショナル スクール

西原 万紀子



こんにちは。お元気ですか。被災者の方々の状況を知りたいです。私達は、ブラジルのサンパウロにあるセント・フランシス・カレッジの小学2年生です。

日本で起こった災害で悲しんでいます。食べ物と住める家があるように願っています。みんなの家族が安全でいる事を願っています。みんなこれから頑張って前よりも良い人生をもっと強い家で過ごせるように祈っています。小学2年生のクラスより。ブラジルから応援しています。がんばって下さい！（写真）日本の国旗に良い子達が、それぞれの思いを寄せ書きしてあります。

☆ 県人会では被災地に送って下さいと、遠野の佐々木栄洋氏に依頼した。

## 東日本大災害岩手県の被害

死者 4,388名 行方不明者 3,275名  
家屋倒壊数 19,669

東日本大災害は5月9日、岩手県災害対策本部の集計で、死者数が前日より8人増えて4,388人、行方不明者は前日と変わらず3,257人になり、家屋倒壊は19,669軒で、大槌町は調査中である。

### 岩手県内の被害者数

|       | 死 者 数 | 行方不明数 | 家屋倒壊数  |
|-------|-------|-------|--------|
| 陸前高田市 | 1,465 | 738   | 3,341  |
| 大船渡市  | 310   | 153   | 3,629  |
| 住 田 町 | 0     | 1     | 0      |
| 釜 石 市 | 822   | 533   | 3,737  |
| 大 槌 町 | 759   | 952   | 調査中    |
| 山 田 町 | 560   | 378   | 2,983  |
| 宮 古 市 | 411   | 490   | 4,675  |
| 岩 泉 町 | 7     | 0     | 197    |
| 田野畑村  | 14    | 22    | 268    |
| 普 代 村 | 0     | 1     | 0      |
| 野 田 村 | 38    | 0     | 475    |
| 久 慈 市 | 2     | 2     | 245    |
| 洋 野 町 | 0     | 0     | 26     |
| 内陸市町村 | 0     | 5     | 107    |
| 合 計   | 4,388 | 3,275 | 19,669 |

## 東日本大災害死者行方不明者数

総務省発表の統計では、5月8日現在の死者、行方不明者を合わせて、3被災県が最も多く合計24,769名、内訳は宮城県が14,885名、岩手県が7,676名、福島県が2,208名で、被害の少ない県をいれて総計24,837名である。

### 岩手、宮城、福島3県の避難者数

岩手63,685名（4月28日）、宮城69,495名、（4月2日）、福島131,700名（3月13日）であった。福島県は原子力発電所事故で半径20キロから30キロ範囲は、避難命令で絶対的に避難民数が多いことが分かる。

## 両陛下、「元気で」と被災者激励 岩手釜石の避難所訪問

被災地のお見舞いで岩手県入りした天皇、皇后両陛下は5月6日、ヘリコプターで釜石、宮古両市の避難所を訪問された。「お体はどうですか」「元気でね」と被災者を励ました。

約100人が暮らす釜石市立釜石中学校。営む理容店が津波で全壊した松田節子さん（74）と息子の利喜さん（49）に、天皇陛下は「今後はどうされるのですか」と尋ねた。5月中に仮店舗で営業を再開する予定。利喜さんは「新しいまちづくりの方向が見えず、元の場所に戻れるかどうか心配ですが、声を掛けていただいたので頑張りたい」と語った。

両陛下滞在中に余震があった。節子さんが思わず皇后さまの手を握ると、皇后さまは手を重ね「大丈夫ですよ」と声を掛けた。

大槌町の佐野真貴子さん（60）は、両陛下が1997年に「全国豊かな海づくり大会」で町を訪れた際の写真を2人に見せた。津波で浸水した家に残っていた。「両陛下とも、よく覚えておられた。うれしかった」と話した。両陛下は釜石から宮古へ向かう上空から、津波被害の状況を見た。臨時ヘリポートと避難所の間は宮内庁職員らと同じマイクロバスで移動した。

☆ こうして両陛下は被災3県や、避難所11箇所を訪問され被災者のお見舞いや、励ましのお言葉を直接かけられた。

両陛下は、今後も被災者の激励にお出かけになられると云う。



## 真夜中の電話インタビュー

5月10日（火）午前3時半、IBC岩手放送ラジオから、千田会長宅へ国際電話がかかってきた。

番組「ワイドステーション」（ディレクター／高橋典子）の照井健、甲斐谷望両アナウンサーから、ブラジルで今回の大震災を知り、県人や日系人皆さんの声、義援金募金開始や「義援金」を岩手県へ贈る経緯などであった。

ブラジル人は大変驚き、日系人は家族や親戚の安否確認で大変心配された事。「母国」へ支援の募金活動などを話し、復興が大変であろうが応援しているので、被災地や被災された皆さんに「忍耐」と「希望」をもって頑張って下さいと伝えた。

ブラジル岩手県人会ニュース 173号 2011年5月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

ブラジル岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



## 「しいのみ学園」から義援金と千羽鶴

岩手県人会へ

5月6日（土）午後、「しいのみ学園」（Colegio Santa Cruz、落合磨校長、生徒数60名）の生徒さんはじめ父兄から「東日本大震災」へ「尊い義援金（R\$3,616.25）」に、被災者を元気づけて下さいと「千羽鶴」を添え、生徒代表が千田岩手県人会長に届けられた。（千羽鶴には「前進」「心と心」の標語に生徒さんの名前が連署されていた）

8日「椎の実学園」にお礼の電話を入れると、落合校長さんのお母さんが岩手県盛岡出身との事。落合校長は幼少の頃渡伯された。同学園ではコロニアの世代も6世がいる子供たちに、ご両親から教わった日本の文化や精神

伝統など、良いところを伝えたいと指導されている。

生徒たちが作った「千羽鶴」を見ると、一つ一つ心を込めて作った「魂」が込められている事を感じた。

生徒の皆さんに話を聞いたところ、機会ある事に福祉活動も行っていることを話していた。改めて「相互の交流」が大事だと思った。

「学園」の皆さんに県人会より、心から感謝申し上げます。「千羽鶴」は早速岩手県の知人に送り、被災学校に贈られた事を報告したい。「ありがとう・ありがとう・・・」

（写真）真由美さん、佐由理さん、八重美さん、レオナルドさんから、県人会長へ義援金と千羽鶴が贈られた。



生徒たちからの千羽鶴



## 46ª CONFRATERNIZAÇÃO E ANIVERSARIANTES



Foi realizado no dia 17 de Abril, a 46ª Confraternização dos associados do Kenjinkai, juntamente com a comemoração dos aniversariantes nascidos nos meses de janeiro a abril.

Após 1 minuto de silêncio, em homenagem as pessoas que perderam suas vidas na tragédia ocorrida na região costeira de Iwate, Chida-san fez um discurso bastante emocionado,

mencionando a destruição, as dificuldades das pessoas afetadas e enalteceu as doações que serão enviados a Iwate.

Neste dia tivemos a entrega do diploma de reconhecimento para o Sr. Bonji Takahashi enviado pelo governo de Iwate e também a realização de Bingo Beneficente arrecadando doações aos desabrigados.

### ANUIDADES RECEBIDAS

(Março) Etsuko Yamaguchi Yamada, Hiroko Hirao, Irene Takahashi, Mitsuru Kikuchi, Manuemon Takahashi, Shigeo Horota, Katsuyoshi Hata, Miyako Chida, Teruhiko Sato, Gosaburo Kudo, Kiku Chiba, Hideo Kawamura, Kazuyoshi Ishisaki, Norio Ito, Shinji Ozaki, (Abril) Yasutada Abe, Kazuko Kubo, Yoshie Ota, Hisashi Oshida, Flavio Massaki Tada, Felipe Issao Tada, Mauro Takanori Tada, Nobori Tada, Kimio Oikawa, Aya Ohara, Rosa Sadako Kuninari, Juvenilson Seiti Kuninari, Kie Mibe, Kou Okada, Akiyo Yatabe. (Maio) Michiko atanabe, Satoshi Nakashima,

## T S U N A M I

Ondas gigantes que atingiram a costa de Iwate, chegaram a 38,9 metros, superando a marca anterior de 38,2 metros registrado em Miyako em 1896 na era Meiji. Um mês após a tragédia, o governador de Iwate Takuya Tasso fez um pronunciamento, mencionando que Iwate ao longo dos anos foi atingida várias vezes por catástrofes naturais, mas sempre conseguiu superar-se. Oficialmente lançou o slogan GAMBAROU IWATE. Os dados abaixo foram divulgados no dia 09 de maio. foto : Porto de Kamaishi ( Yoshihiro Sasaki )



## 7º UNDOKAI GRUPO

### TOHOKU-HOKKAIDO

Aconteceu no dia 01 de maio, sob coordenação geral do Iwate Kenjinkai. O undokai deste ano foi realizado no Colégio Santa Amália, pela primeira vez em quadra coberta e segundo os organizadores compareceram mais de 350 pessoas.

As fortes chuvas que caíram no meio da tarde, felizmente não atrapalharam as brincadeiras e o undokai transcorreu normalmente até o final. Outro diferencial foi arrecadação de mais de 320 kg de alimentos não perecíveis que foram doados a entidade Kibo-no-ie.

A maioria dos participantes aprovaram e parabenizaram os organizadores pela escolha do local.



## PRÓXIMOS EVENTOS

5º Wanko Soba Matsuri

Data : 29/05/2011 Hora : 11:00 as 15:00 hs

14º Festival do Japão

Data : 15/16/17 de Julho

Local : Expo Imigrantes

47º Confraternização e Aniversariantes

Data : 28/08/2011

| Cidade    | Mortos | Desaparecidos | Casas destruídas  |
|-----------|--------|---------------|-------------------|
| R. Takada | 1.465  | 738           | 3.341             |
| Ofunato   | 310    | 153           | 3.629             |
| Sumida    | 0      | 1             | 0                 |
| Kamaishi  | 822    | 533           | 3.737             |
| Ootsuchi  | 759    | 952           | não contabilizado |
| Yamada    | 560    | 378           | 2.983             |
| Miyako    | 411    | 490           | 4.675             |
| Iwaizumi  | 7      | 0             | 197               |
| Tanohata  | 4      | 2             | 268               |
| Fudai     | 0      | 1             | 0                 |
| Noda      | 38     | 0             | 475               |
| Kuji      | 2      | 2             | 245               |
| Hirono    | 0      | 0             | 26                |
| Outras    | 0      | 5             | 107               |
| Total     | 4.388  | 3.275         | 19.669            |